

12. 健康に関する情報

(1) メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度

問39 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)とは、「内臓脂肪が蓄積することによって、血圧、血糖が高くなったり、血中の脂質異常を起こしたりして、食事や運動などの生活習慣を改善しなければ、心筋梗塞や脳卒中などが起こりやすくなる状態」のことで、あなたは、この内容を知っていましたか。(○はひとつ)

全体では、「内容を知っていた」が68.5%となっている。「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」は23.9%、「知らない」は5.1%である。(図12-1-1)

性別にみると、「内容を知っていた」は女性(69.1%)が男性(67.7%)より1.4ポイント高くなっている。(図12-1-1)

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は女性60~69歳で77.4%、女性50~59歳で76.2%、男性60~69歳で74.6%、男性50~59歳で73.1%と高くなっている。「知らない」は男性15~19歳で16.0%、女性15~19歳で14.2%となっている。(図12-1-2)

図12-1-1 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度（全体／性別）

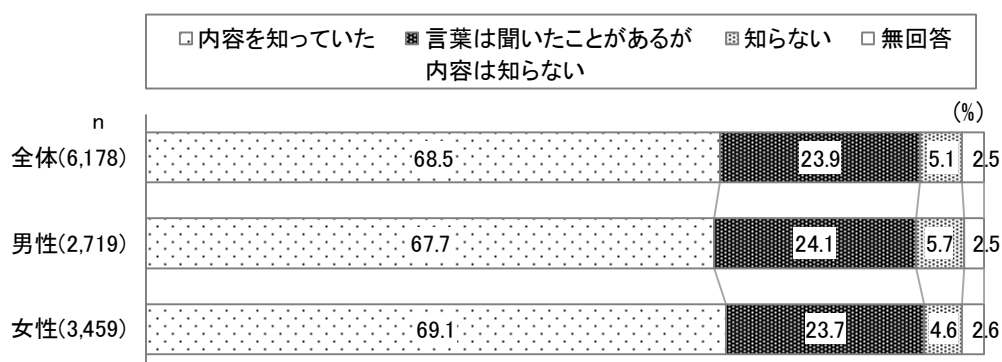
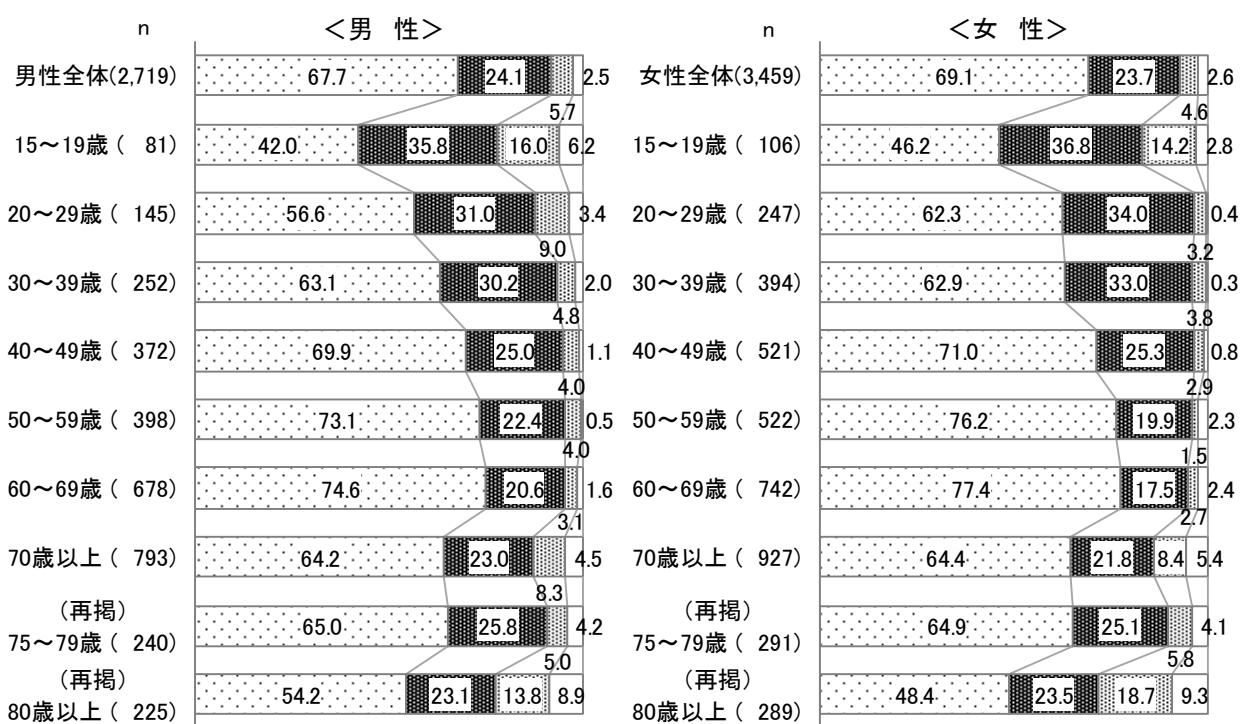


図12-1-2 メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の認知度（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」(68.5%)は平成27年度(70.9%)より2.4ポイント減少している。(図12-1-3)

性別で過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」は男性(67.7%)が平成27年度(72.7%)より5.0ポイント減少している。(図12-1-4)

図12-1-3 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の認知度(過去の調査との比較)

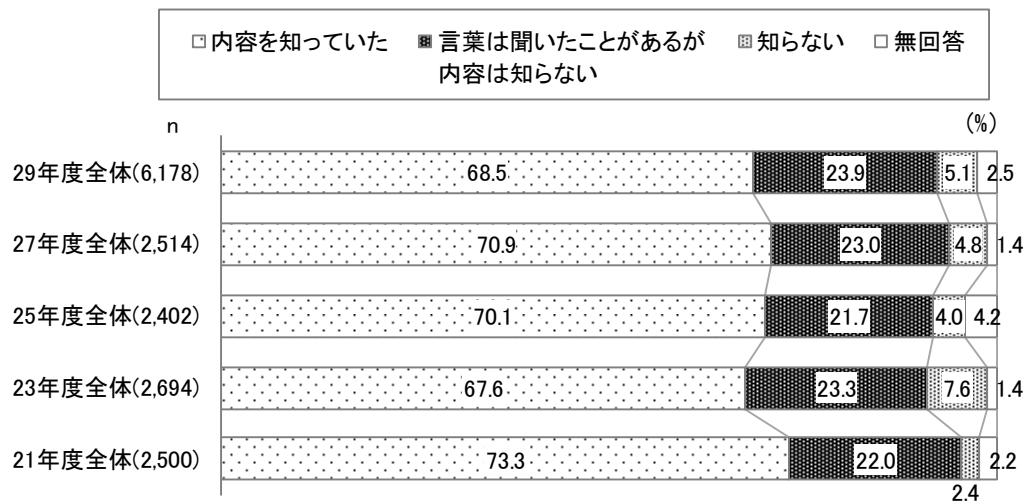
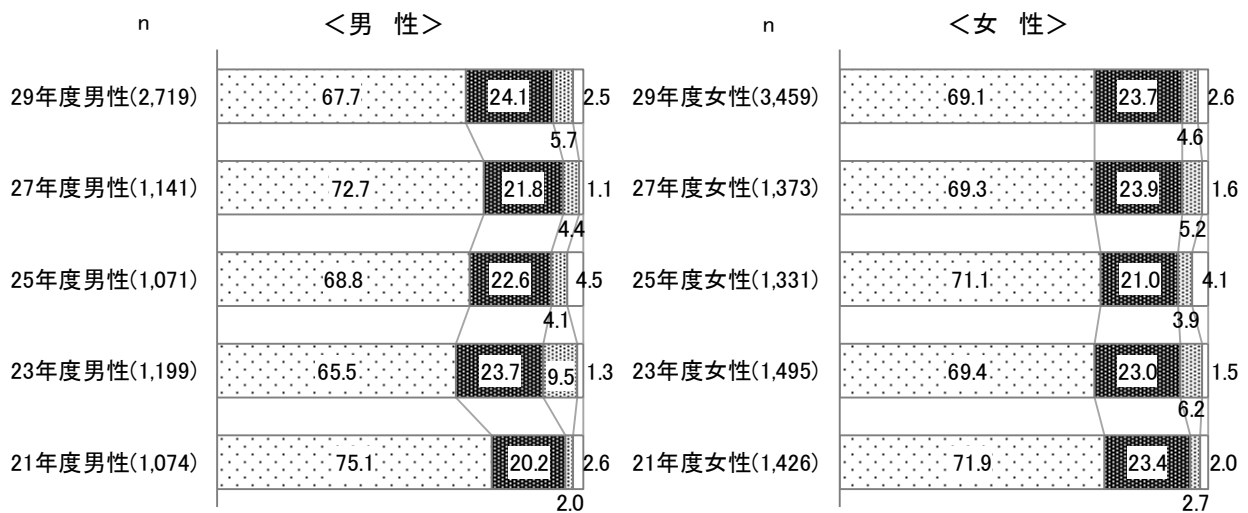


図12-1-4 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の認知度(過去の調査との比較・性別)



(2) ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度

問40 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）とは「運動器官（筋肉、関節、骨など、人が移動するために使う器官）の障害によって、日常生活で人や道具の助けが必要な状態やその一歩手前の状態」のことです。あなたは、この内容を知っていましたか。（○はひとつ）※ロコモティブシンドローム（運動器症候群）は、要支援・要介護の原因の4分の1を占めています。

全体では、「内容を知っていた」は19.0%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」は23.0%で、この2つを合わせた《認知している》は42.0%となっている。（図12-2-1）

性別にみると、「内容を知っていた」は女性（21.9%）が男性（15.2%）より6.7ポイント高くなっている。（図12-2-1）

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は女性60～69歳で27.0%、女性50～59歳で24.7%と高くなっている。「知らない」は男性15～19歳で72.8%、女性15～19歳で75.5%となっている。

（図12-2-2）

図12-2-1 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（全体／性別）

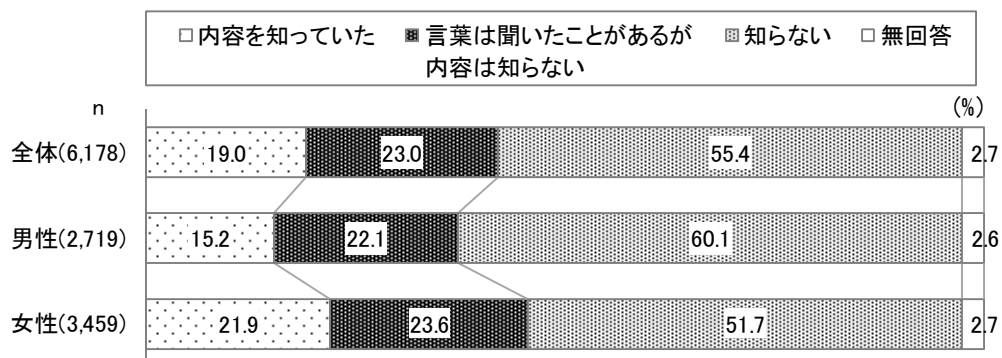
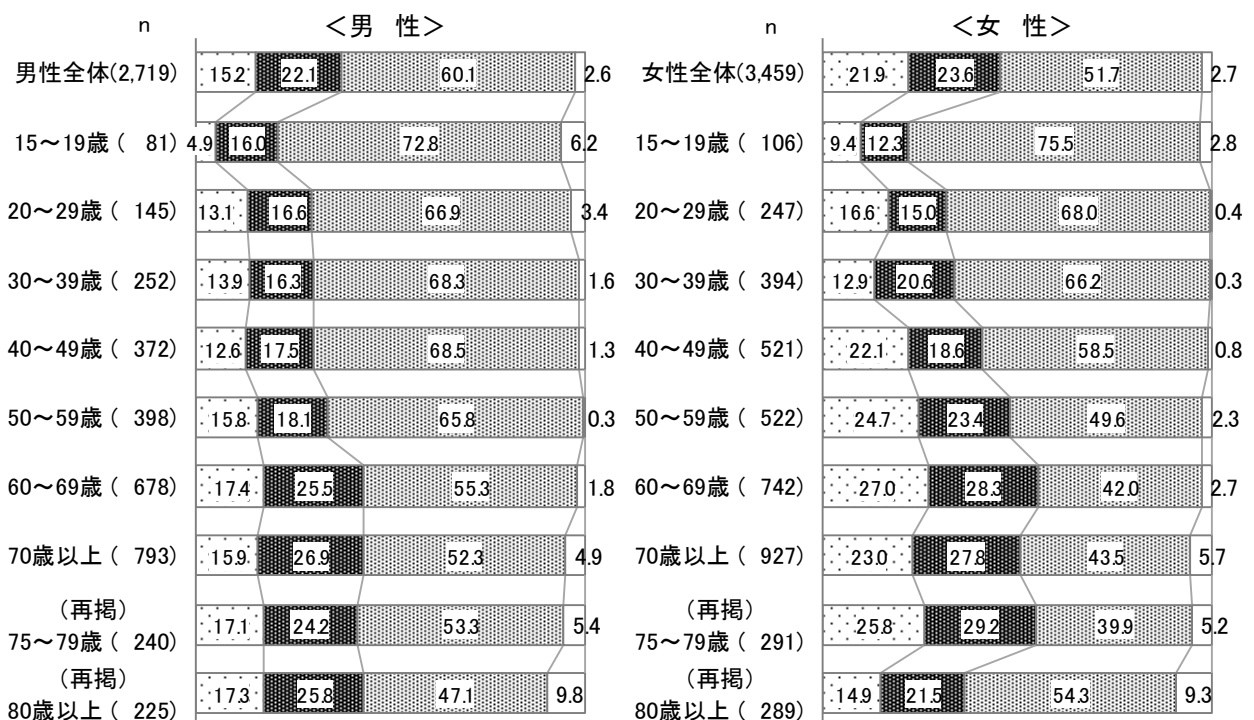


図12-2-2 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、「認知している」(42.0%)は平成27年度(41.4%)より0.6ポイント増加している。(図12-2-3)

性別で過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」は男女とも平成27年度より減少している。(図12-2-4)

図12-2-3 ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の認知度(過去の調査との比較)

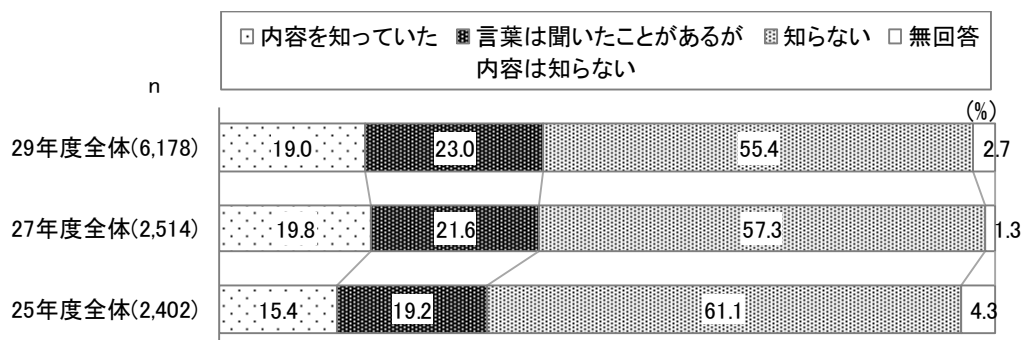
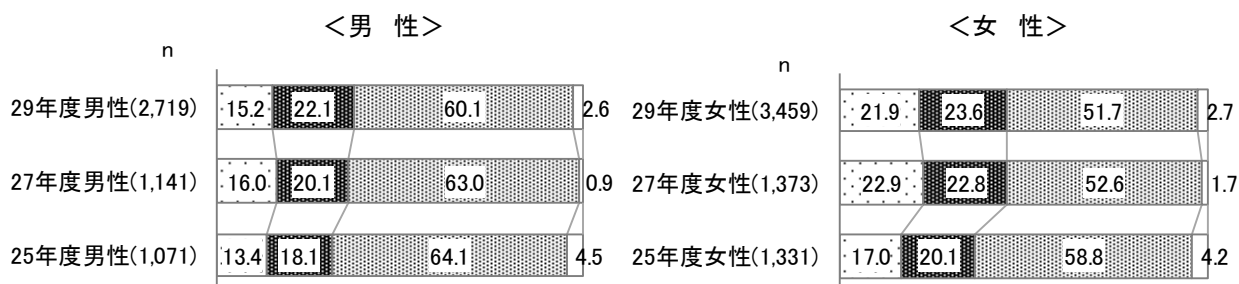


図12-2-4 ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の認知度(過去の調査との比較・性別)



※平成21・23年度調査では、この質問をしていない。

(3) COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度

問41 COPD（慢性閉塞性肺疾患）とは「たばこの煙を主とする有害物質が長期に気道に触れることによって起きる炎症性の疾患で、主な症状として咳・痰・息切れがあり、徐々に呼吸障害が進行する疾患」で喫煙者の20%がCOPDを発症するといわれています。あなたは、この内容を知っていましたか。（○はひとつ）

全体では、「内容を知っていた」は24.1%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」は19.7%で、この2つを合わせた《認知している》は43.8%となっている。（図12-3-1）

性別にみると、「内容を知っていた」は女性（26.7%）が男性（20.8%）より5.9ポイント高くなっている。（図12-3-1）

性・年齢別にみると、「内容を知っていた」は女性の全ての年代で男性より高くなっており、女性40～49歳で30.1%と最も高くなっている。「知らない」は男性15～19歳で71.6%、女性15～19歳で71.7%と高くなっている。

（図12-3-2）

図12-3-1 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度（全体／性別）

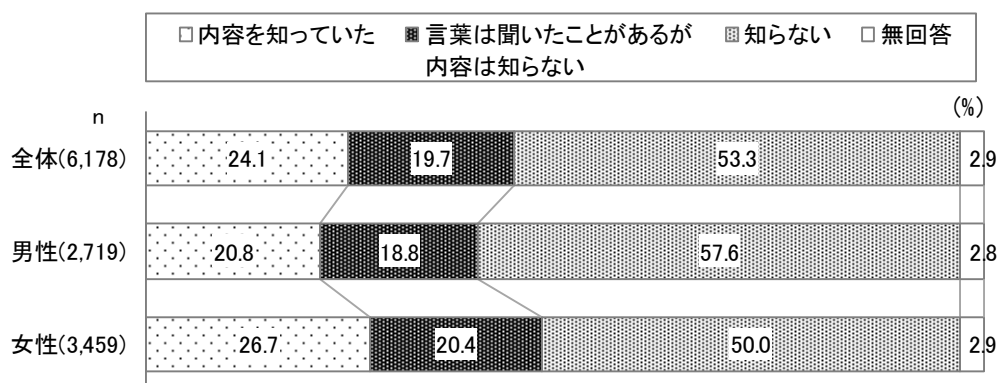
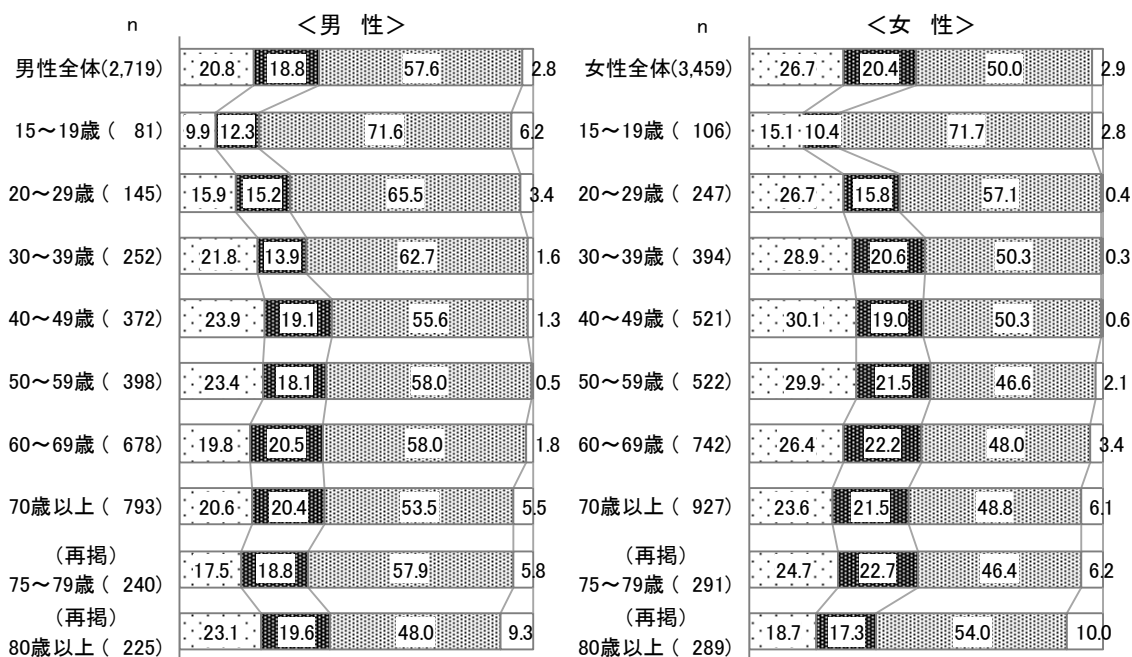


図12-3-2 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、「認知している」(43.8%)は平成27年度(46.7%)より2.9ポイント減少している。(図12-3-3)

性別で過去の調査と比較すると、「内容を知っていた」は男性(20.8%)が平成27年度(24.4%)より3.6ポイント減少している。(図12-3-4)

図12-3-3 COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度(過去の調査との比較)

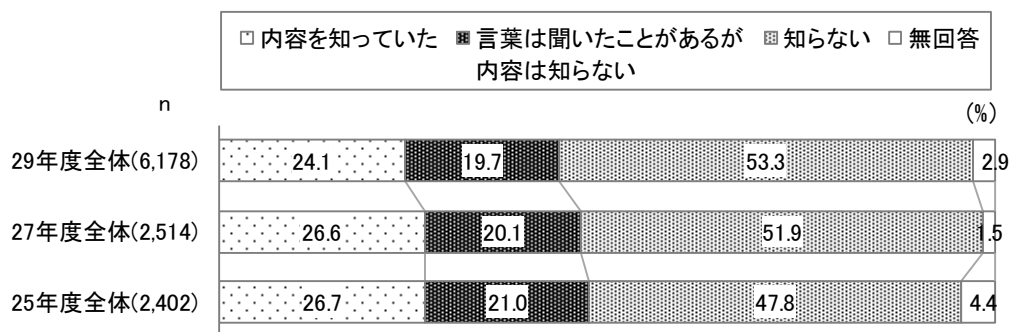
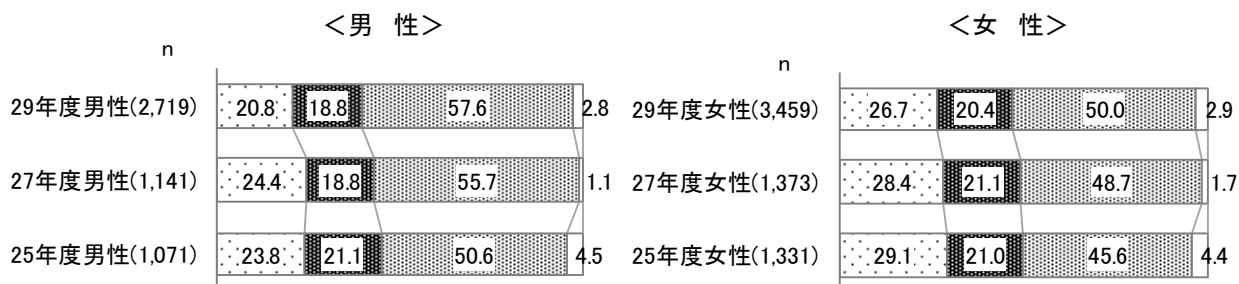


図12-3-4 COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度(過去の調査との比較・性別)



※平成21・23年度調査では、この質問をしていない。